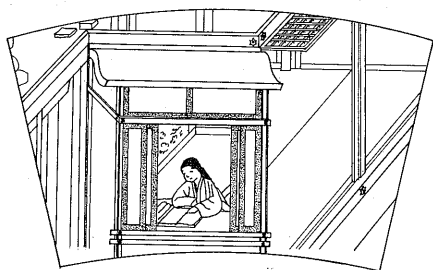


横浜国立大学附属図書館沿革誌



平成 9 年 12 月

横浜国立大学附属図書館

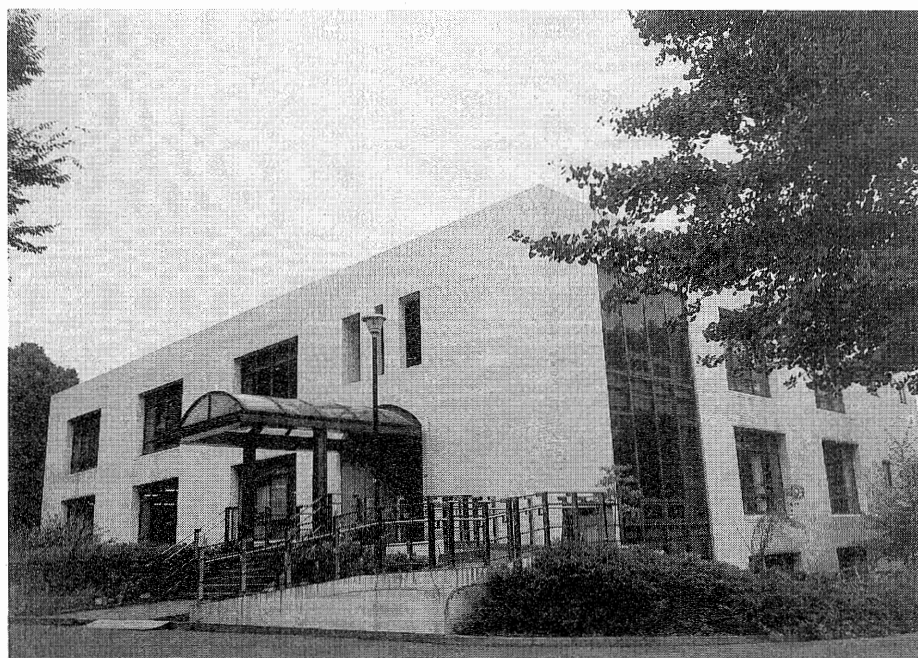
横浜国立大学附属図書館沿革誌

平成9年12月

横浜国立大学附属図書館



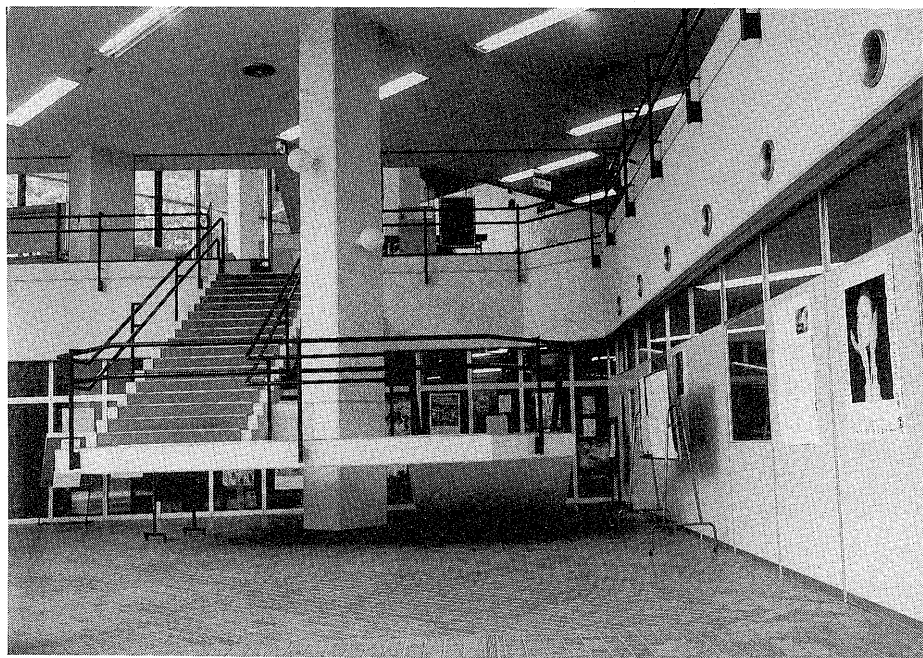
1. 横浜国立大学附属図書館



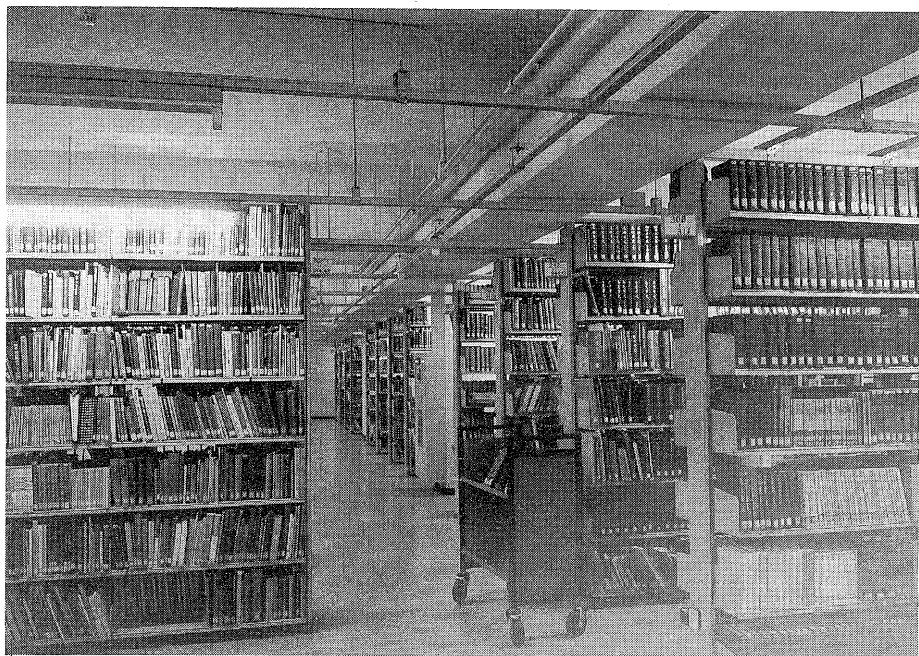
2. 附属図書館2号館



3. 附属図書館 2階入口ホール



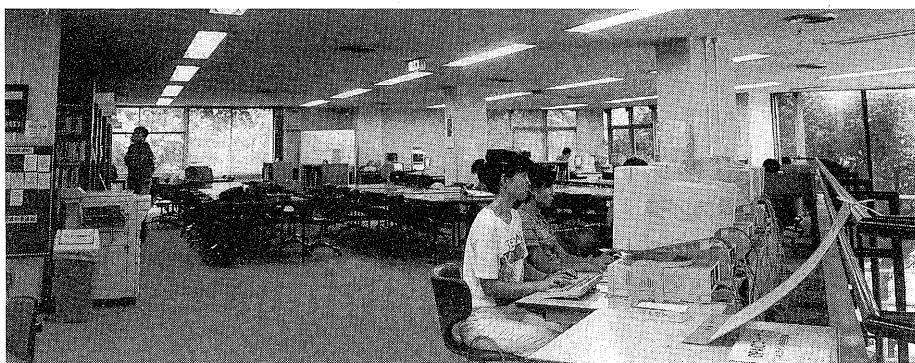
4. 附属図書館1階ロビー



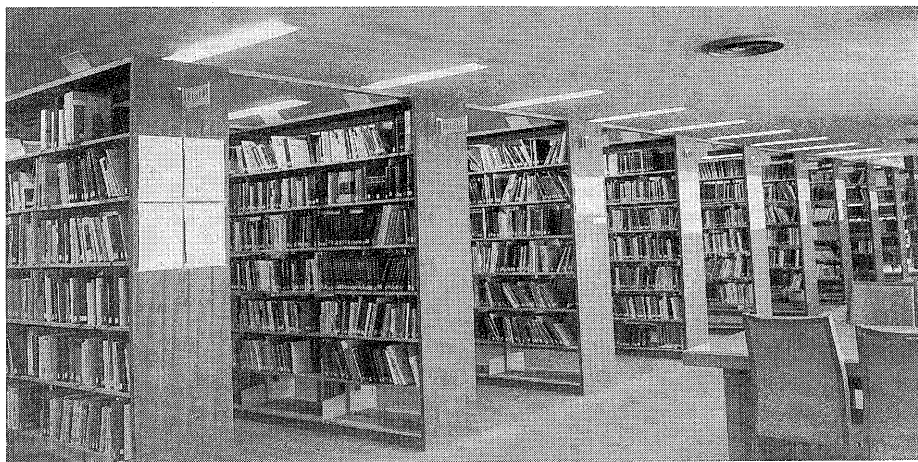
5. 附属図書館2号館書庫



6. 附属図書館2階メインカウンター



7. 附属図書館2階OPACコーナー



8. 附属図書館2階開架閲覧室



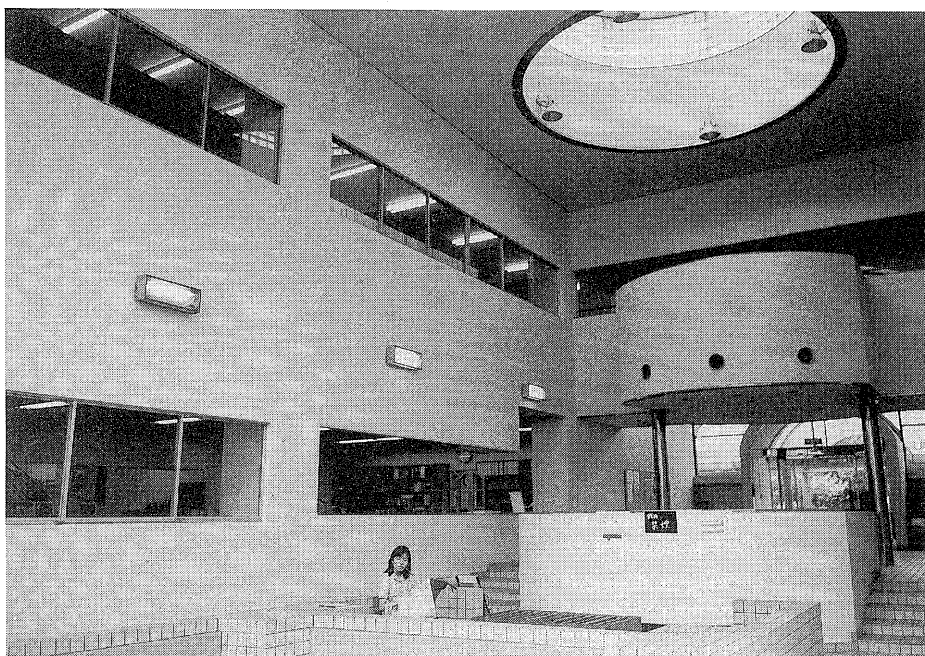
9. 社会科学系研究図書館（経済学部研究棟1・2階）



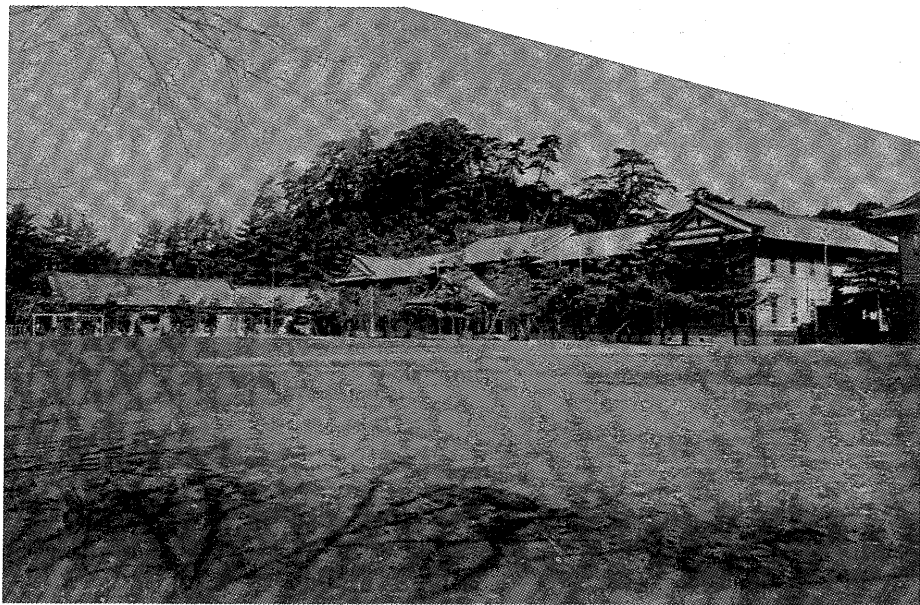
10. 社会科学系研究図書館2階閲覧室



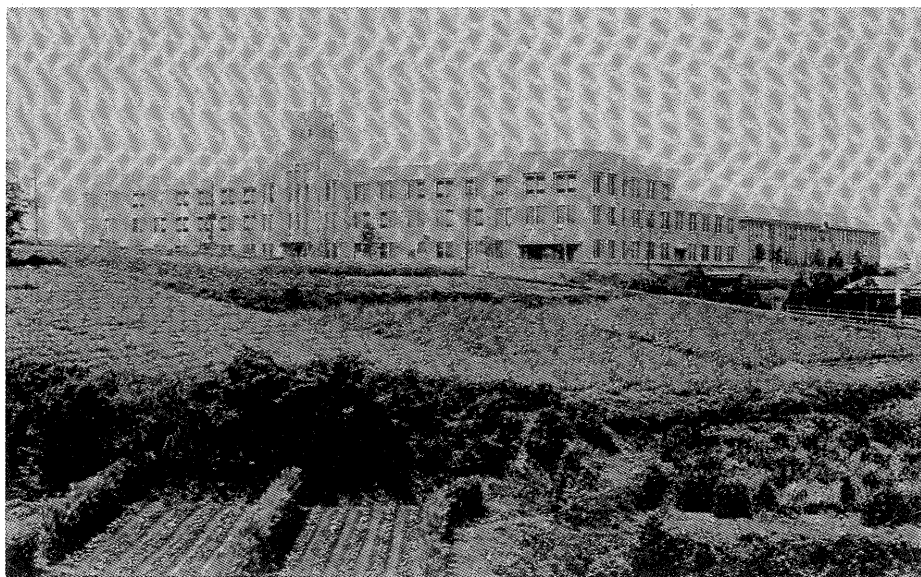
11. 理工学系研究図書館



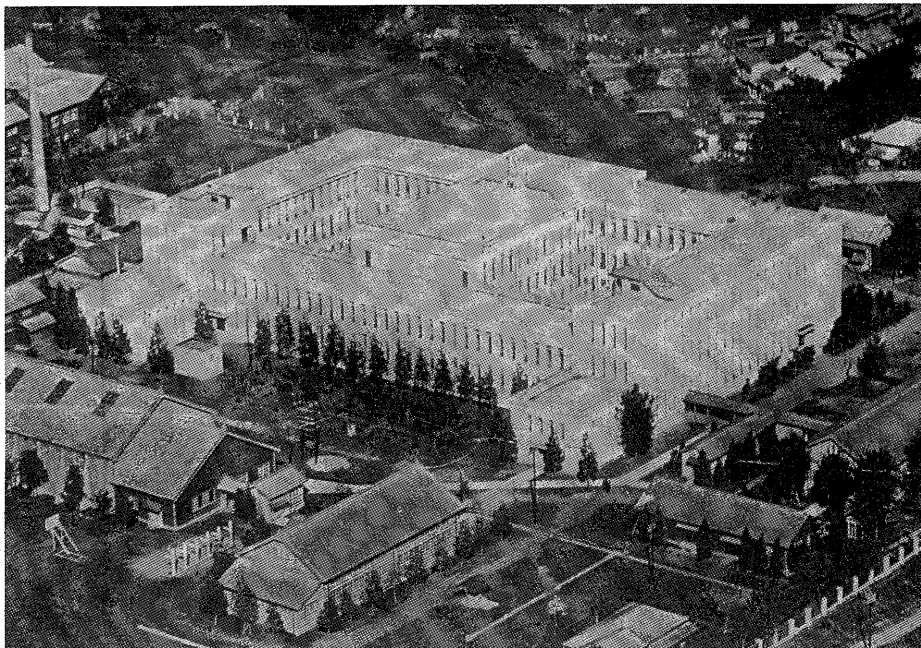
12. 理工学系研究図書館1階ロビー



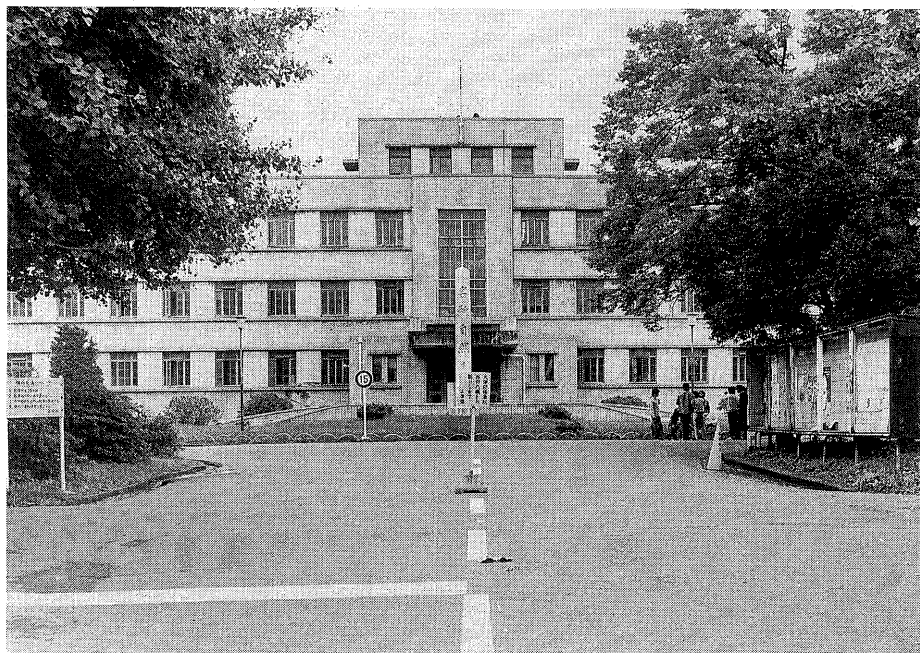
13. 旧神奈川県師範学校



14. 旧神奈川県女子師範学校 横浜市史稿教育編



15. 旧横浜高等商業学校



16. 旧横浜高等工業学校

横浜国立大学附属図書館沿革誌の発刊によせて

本学附属図書館沿革誌が刊行された。5つの前身校からなる分散大学から、昭和49年に今の14万坪のキャンパスに移転統合し、図書館も大きく変貌した。それは中央図書館と社会科学系、理工学系の2研究図書館からなる鼎の如き形態である。この間、蔵書は新制大学発足時の13万冊から近々113万冊となり、図書検索、高度情報通信、基礎資料の電子化を中心とした電子図書館的機能も着実にのびつつある。大学附属図書館は単に情報の中心というだけでなく、人類叡智の結集の場であり、教職員・学生はもとより、さらに生涯学習の時代に学問に関心をもつ人々全体にできるだけ利用できるようにする必要がある。

聞く所によると、本書の企画は前身校の時代はもとより、大学創設時、さらに昭和49年の統合前もしだいに忘却され、また資料が散逸してゆく状況を憂え、かつこれからの発展・飛躍のための踏台として本沿革誌の発刊が計画されたという。温故知新は古人の智慧であり、明日の大学の発展に役立つことを願ってやまない。

ところで2年後には新制大学発足50周年を迎え、各大学ともさまざまな企画がおこなわれている。本書は直接それと連動するものではないが、高齢の執筆予定者の健康を願って企画の可及的すみやかな実施になったという。しかし、大観すれば図書館という一分野の50年史とみてもよいであろう。

本書の有効な活用とともに御批判いただければ幸いである。また本書の執筆にあたられた名誉教授、教職員及び元教職員のボランティアの方々に心からお礼を申し上げる次第である。

平成9年11月

横浜国立大学学長

板垣 浩

凡例

- 1 本書は横浜国立大学附属図書館およびその前身校の図書室の沿革を記したものである。上限は発足時、下限は平成9年3月31日とした。
- 2 内容は本文編と資料編に分け、前者は前身校およびキャンパス統合前の附属図書館・各分館、常盤台移転後の附属図書館の順とした。
- 3 各学部の順は官制順とし、前身校の順も概ね後継の学部順とした。
- 4 年号は原則として和年号とした。
- 5 長さの単位はメートル法としたが、面積表記は便宜上、坪を用いた所がある。
- 6 数字の表記は原則として算用数字とした。
- 7 各記述は貴重な1次の証言が主なため、文章の統一は行わず、題名ごとに執筆者の名前を記した。